



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

この池の 生々流転 蝌蚪の紐 (高浜虚子)

歯科麻酔科 科長(副病院長) 飯島 毅彦

水ぬるむ今日この頃、陽の光が本格的に温かくなり、からだもほっと力が抜ける季節となりました。上述の俳句は、この時期の池の様子を表したのですが、「蝌蚪」、なんでしょう。「かと」と読みますが、実はおたまじゃくしのことなのです。つくりの科は丸い、斗はひしゃくを示すそうです。頭が円く、しっぽがついた形を表しているのです。池の中でせわしなく尻尾を動かしている姿は、春になって生命が息を吹き返していることを実感させる光景です。みなさんも春の息吹に気持ちが幾分うきうきしているでしょうか？

昭和大学歯科病院も新しい歯学部5年生と臨床研修医を受け入れました。4月1日の新年度が始まる前の3月28日からすでに新しい学年が始まっています。昭和大学歯学部では第2学年から第4学年までは旗の台の昭和大学本部で授業を受け、臨床実習を受ける前の基礎的な実習も行っています。ここで歯科医療の基本を学び、実際に患者さんと接することができるように基礎づくりをします。第4学年の終わりには国内で統一された評価機構による試験により、臨床実習に出てもよいかの判定を受けます。知識としてのCBT(Computer Based Testing)と臨床能力試験を評価するOSCE(Objective Structured Clinical Examination)2つです。医学部、歯学部、薬学部といった医療職ではこの2つの試験が義務化されています。これらの試験に合格した者だけが臨床実習を許されるという仕組みになっており、臨床の現場に出る学生の質を保證しています。これらの関門を通過できなければ洗足の歯科病院に来ることはできません。これらの学生は学生といえど

も、すでに専門的知識を学修しており、Student doctorとも呼ばれています。晴れてStudent doctorになったものは白衣授与式という式典で臨床現場に出ることを許される白衣を着させられます。今の時期はピカピカに白い白衣を院内でご覧になるのではないかと思います。彼らにとっては臨床に来て実際の患者さんを拝見することにより、初めてこれまで習ってきた知識を実際のものとして習得することができるのです。



昭和大学歯科病院では歯科のそれぞれの専門分野で腕を磨いたベテランの指導の下、多くの歯科医師が診療にあたっています。先輩の技術を臨床の現場で教えてもらい、その教育の中で優れた技術が受け継がれています。患者さんの皆様もこれらの若い卵の育成にご協力いただくこともあるかと思いますが、何卒ご理解、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

尾の消えておたまじゃくしと訣別す (稲畑汀子)

冒頭の高浜虚子さんのお孫さんの句です。そんな学生も臨床研修期間を過ぎるといつのまにか見違えるような大人の話し方をする職業人に変わっていきます。これは教官の教育だけではなく、患者さんとの触れ合いの中で身に付けてきたものです。おたまじゃくしを蛙の子に育ててくださる患者さんに感謝いたします。



歯科麻酔科 紹介

昭和大学歯科病院には麻酔管理業務を専門とする歯科麻酔科があります。年間、800件を超える全身麻酔と1200件を超える静脈麻酔を行っています。「歯科麻酔科」というと「歯の麻酔」を思い浮かべると思いますが、口腔内の局所の麻酔ではなく、全身管理としての麻酔業務を行っています。この歯科病院には大学院生を含めて18名の常勤がおり、昭和大学附属病院の他学外研修施設で22名が常勤職員として麻酔業務に従事しています。歯科麻酔医科病院でも経験を積んだものが麻酔管理に従事しています。

抜歯でも局所麻酔だけでは困難な症例の他、顎の変形を直す手術や口腔内の疾患の手術などでは全身麻酔が必要となります。また、小児や知的障害を持っている方なども歯科治療を受けていただくためには全身麻酔が必要になってきます。全身麻酔は薬剤を用いて意識がない状態を作り出します。手術中に目が覚めることはありません。再び目が開いたら手術は終わっています。歯科治療が怖くて受けられない方や治療器具が口に入ると気持ち悪くなる方などにはとても役に立つ方法です。近年の麻酔薬は改良が重ねられ、以前とは比べ物にならないくらい麻酔からの覚めも早いものになっています。そのため麻酔に伴う不快なこともほとんど抑えられています。

当病院には22床の入院設備もありますから手術後の入院もできます。患者さんに心地よい医療を提供するために外来だけではなく、ベッドも用意しています。これはあまり知られていないかもしれませんがより高度な医療に安全に対応するための医療機関になっています。

超高齢社会と言われるように様々な疾患をもった患者さんも歯科病院には来られます。安全に歯科医療を受けていただくには患者さんの循環や呼吸を監視しながら行うことも必要になります。歯科病院では、地域の医療機関と連携しながらそれぞ

れの患者さんに合わせた全身管理を行っています。昭和大学歯科病院内科クリニックも併設していますので内科医の専門的な診療が必要な場合にも迅速に対応できる体制をとっています。

歯科麻酔科はあまり知られていない診療科ですが、安全で快適な歯科治療を受けていただくための診療科です。お役に立つことがあれば歯科病院内の歯科医師にお尋ねください。

歯科麻酔科 科長(副病院長) 飯島 毅彦



モーニングカンファレンス



手術室にて

昭和大学歯科病院に総合内科が開設されて10年余が過ぎました。当初は歯科との連携やプライマリケア重視の方針を掲げスタートしたものの戸惑うことばかりでした。けれども、総合医局で歯科麻酔科や総合診療歯科、口腔リハビリテーション科と一緒させていただき、大変にお世話になりました。最も多くの患者さんを紹介して下さったのは口腔外科の先生方でしたが、最近では連携歯科やインプラントセンター、歯周病科からの紹介も増加しています。こうして歯科病院のなかで徐々に存在感を増していった総合内科でしたが、このほど「昭和大学歯科病院内科クリニック」として外部に専用の入り口を設け、内装も新たにオープンいたしました。これまでの総合内科の特徴であった、細分化された専門性に捉われず全身を満遍なく診察する方針はそのままに、患者さんとの近接性や医療の継続性、他科との協調性を軸とした総合診療の水準をさらに高めてゆく所存です。

クリニック責任者である井上診療科長の専門は循環器疾患ですが、高血圧・高脂血症や糖尿病などの成人病のほか、ストレスが関与する自律神経失調や心身症などにも幅広く対応いたします。助教の安藤医師は喘息や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患のほか、睡眠時無呼吸症候群や各種アレルギー疾患、癌治療とその合併症、スポーツ医学にも対応します。その他の疾患で、より専門的な診療が必要と判断された際には速やかに昭和大学病院ほか適切な医療機関へ紹介いたします。主要なルーチン検査はこれまでと同様に歯科病院の臨床病理検査室、および歯科放射線科で行いますが、消化管内視鏡・超音波・MRI・造影CT等につきましては医療連携室を通じて昭



和大学病院に依頼いたします。

総合診療の特性として、患者さんの服薬している薬、他科の診療内容を十分に把握しておく必要があります。受診の際には、本年度より導入された「かかりつけ薬局」制度に限らず、お薬手帳などの医療情報を必ず持参されるようお願いいたします。また総合診療の性質上、各種検査データの定期的なフォローアップも必要ですのでご理解のほど、お願い申し上げます。



開院式の様子



内科クリニック 受付

平成27年度 病院長表彰

平成27年12月18日(金)品川プリンスホテルにおいて、平成27年度「昭和大学歯科病院長表彰」表彰式が執り行われました。この「病院長表彰」は昭和大学歯科病院の診療内容、患者満足度、学生教育、地域貢献の向上を目的に創設したものです。平成27年度は、ボランティアの能勢久美さんと杉山靖子さん、歯内治療科の高林正行先生が受賞されました。表彰式には代表として高林先生が出席し、榎病院長より表彰状及び副賞が授与されました。受賞されたみなさま、おめでとうございます。



表彰された高林正行先生

事務課

新入職員 紹介

平成28年度昭和大学入職式が4月1日に明治神宮会館で執り行われ、当院には5名の歯科衛生士が新入職員として入職いたしました。

入職式終了後、昭和大学歯科病院にてオリエンテーションが行われ、榎病院長より新入職員へ辞令が交付されました。各部門責任者紹介の後、新入職員5名が自己紹介と歯科病院での今後の抱負を述べられました。みなさまの活躍を期待しております。



前列左より、歯科衛生室 永里咲恵、馬場副院長、榎病院長、歯科衛生室 前田実穂
後列左より、歯科衛生室 松田真優、宇津野美香、大野紗百合

事務課



編集後記

4月中旬に入り桜の花も散り、新緑が力強く芽吹く時期となりました。歯科病院も新しいスタッフ、新しい臨床研修医、新しい学生を迎え、平成28年度の業務がようやく軌道に乗り始めました。本年度も皆様の健口を守るためスタッフ一同鋭意努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



(K.T)